



## センター試験結果と各教科分析

今年のセンター試験の参加大学・短大数は、昨年度とほぼ同数の858大学となりました。大学入試センター試験の本試験受験者数は526,701人（昨年度544,782人）で、昨年度に比べ18,081人減少しました。

全国平均点と各教科・科目の分析と大学入学共通テストに向けたアドバイスを挙げておきました。過去問がなく、新しい入試に向けて準備をしなければならない2年生の皆さんは、これから行われる模擬試験にしっかり取り組み、出題傾向をつかみ、対策をしていきましょう。

令和2年度大学入試センター試験（本試験）平均点等一覧 中間集計その2

本試験受験者526,701人

（ ）内は100点換算

教科名	科目名	受験者数	平均点	最高点	最低点	標準偏差	
国語 (200点)	国語	498,015	119.33 (59.66)	200 (100)	0(0)	35.70 (17.85)	
地理歴史 (100点)	世界史A	1,765	51.21	100	10	20.19	
	世界史B	91,587	62.96	100	2	22.46	
	日本史A	2,431	44.61	100	6	17.42	
	日本史B	160,377	65.45	100	0	19.43	
	地理A	2,238	54.52	100	0	18.07	
	地理B	142,989	66.35	100	0	14.84	
公民 (100点)	現代社会	73,244	57.30	100	0	17.01	
	倫理	21,191	65.37	100	0	16.20	
	政治・経済	50,377	53.75	100	0	16.96	
	倫理、政治・経済	48,319	66.51	100	0	15.80	
数学	数学① (100点)	数学I	5,571	35.95	98	0	17.39
		数学I・数学A	381,825	51.89	100	0	18.43
	数学② (100点)	数学II	5,086	28.40	97	0	18.60
		数学II・数学B	339,622	49.05	100	0	22.62
理科	理科① (50点)	物理基礎	20,427	33.29 (66.58)	50 (100)	0(0)	11.82 (23.64)
		化学基礎	110,868	28.20 (56.40)	50 (100)	0(0)	11.34 (22.68)
		生物基礎	137,301	32.10 (64.20)	50 (100)	0(0)	10.14 (20.28)
		地学基礎	48,662	27.04 (54.08)	50 (100)	0(0)	9.80 (19.60)
	理科② (100点)	物理	153,057	60.69	100	0	21.64
		化学	193,349	54.80	100	0	22.59
		生物	64,563	57.56	100	0	20.05
		地学	1,680	39.52	100	0	17.69
外国語	筆記 (200点)	英語	518,184	116.32(58.16)	200 (100)	0(0)	42.64 (21.32)
	リスニング (50点)		511,815	28.79 (57.58)	50 (100)	0(0)	9.86(19.72)

## 英語の分析とアドバイス 渡部 雄大 教諭

今年のセンター試験の平均点は、筆記は116.32点（昨年平均123.30点）、リスニングは28.79点（昨年平均31.42点）とどちらも平均点が下がった。

筆記、リスニングともに大きな形式の変更はなかった。特に筆記については、第1問のアクセントは易化、第2問では並べ替えの問題が難化した。第4問では、本文の記述を基に図表の数値を計算させる設問や、後に続くと考えられる内容を選択させる設問が登場した点は昨年度と異なった。第5問の物語読解は、空想的内容が含まれるため、物語の流れをつかめないと読みにくいと感じた人もいたのではないだろうか。第6問の評論読解については身近な自動販売機に関する内容であったため、記載されている内容を把握しやすい段落も多かったと思われる。特に第5問と第6問については、昨年度より難しい語彙が多く選択肢に登場し、正答を選ぶのに苦労する設問も増えていた。

次年度から始まる大学入学共通テストは、今年度までのセンター試験と異なり、筆記100点、リスニング100点となる。筆記については、アクセント問題や文法問題は出題されず、広告文、ブログ、記事など、多様な形式の数多くの長文を読むことになるため、英文を読む量が格段に増える。リスニングについては、設問数が増え、1度しか英文が読めない設問も登場する。

早く多量の英文を読んで内容を正確に理解し、そして、英文を聴いて内容を正確に理解する力を付けるためにも、大切になるのは以下の3点である。

- (1) 語彙力 単語帳、教科書、問題集、模試に登場した単語や表現、熟語を繰り返し覚える。語彙力はすぐには伸びないため、3年生も非常に苦労していた。早いうちからコツコツやることが、読解力向上のカギとなる。
- (2) 文法 英文を正確に読むためには文法の知識が必要不可欠である。共通テストにおいて、センター試験のような文法問題は出題されないが、重要な文法事項が含まれた英文が設問解答の根拠となる可能性が大いにある。また、国公立大学の二次試験や私立大学の入試問題の英文読解にも必要であり、文法問題を出題する大学も多い。文法問題集に繰り返し取り組み、知識の抜け漏れがないかを確認し、理解が不十分な箇所をデュアルスコープ等で確実に補い、定着させることが大切である。英文の読解力や英文を聞いて内容を把握する力の向上に必ずつながる。
- (3) 復習 教科書や模擬試験、問題集の英文について、1度学習した後は手をつけないという人は多い。しかし、1度学習した英文をぜひ繰り返し読んでほしい。繰り返し読むことで、単語や表現、熟語をより確実に定着させることができる。また、日本語に直さなくても理解できる単語や表現等が増えていくので、英語を英語のまま理解できる量が増えていくため、読むスピードが向上する。特に音読は効果的である。ぜひ毎日取り組んでほしい。

また、リスニングについても、GTECの教材や市販の教材を使用した際、問題に取り組んだだけではもったいない。問題に取り組んだ後は、CDの英文を聴いて書き取る、CDの音声に続いて英文を声に出す、などのトレーニングを行うと効果的である。音のつながりや、弱く読まれる音など、特に注意してほしい。また、英文のスク립トも必ず復習し、わからない単語や表現は必ず覚えよう。読んで理解できない英文は、聴いても理解できないのである。

## 国語の分析とアドバイス 田中 絢子 教諭

現代文・評論では、「レジリエンス」という概念について述べられた文章が取り上げられた。「レジリエンス」という概念になじみのない受験生は、述べられるいくつもの具体例をもとにその意味を適切に捉えていく必要がある。また、評論を読んだ3人の生徒の会話文が掲載され、その中の空欄を補う適切な文章を選ばせるという、去年と同様の形式の問題が出題された。ここで求められていることは、筆者の主張の要約として適切な文章を選択することである。日々の授業等を通して、テーマと本文の構成の関わりに注意して読む力を身に付けるとよい。

現代文・小説は原民喜「翳」から出題。「私」がかつて関わっていた若者などについて、「私」の心情が多く語られた文章であった。若者の名前は「川瀬成吉」であるが、彼が身を置いた「魚芳」という呼称と混同しやすい。設定を把握するまでは特に丁寧に読む必要がある。心情表現の読解力を付けるには、授業の話合い活動等で、自分の読みの妥当性を検討することや、様々な文章を自分から読むことが有効だ。

古文は「小夜衣」から出題。敬語の方向についての設問は、昨年に引き続き出題。本文の概要を捉えた上で、設問の選択肢にまどわされずに正解するには、精密な読解力を要する。ただし、授業を通して、知識や読解の仕方を十分身に付けた上で、日々古文に触れていけば、満点もねらえる。

漢文は、謝霊運の五言詩から出題。隠棲生活を題材として、作者の前向きな心情が表現されている。選択肢のイラストより正解を選ぶ珍しい形式の問題も出題された。傍線部の内容を、注釈を参照しながら落ち着いて読解し、正解を選びたい。授業の内外において自力で現代語訳をつくり推敲するなどをして、読解力を身に付けている受験生は、十分に満点がとれる問題である。

## 理科の分析とアドバイス

### 【物理】千葉 禎 教諭

物理基礎では斜方投射とゴムひもをつけた小球の運動が初めて出題されたが、全体としては昨年並みか、やや易化。ほぼ教科書の内容で対応できる内容である。中学理科の物理分野が基礎になっているので、もう一度内容の確認をしておいても良い。

物理の難易度も全体としては昨年並みか、やや易化。教科書の内容全体からまんべんなく出題されている。教科書にないタイプの問題も出題されているので、基礎力を定着させ、活用できる必要がある。また、最新の話題からの出題もあった。計算については公式の理解とその活用がしっかりとできるようにしたい。

### 【化学】半田 祥子 教諭

化学基礎は昨年度より易化した。第1問の多くは定期考査レベルである。計算問題は3題であるが、いずれも内容は基本的であるものの、化合物や問い方が基本問題と異なるため難しく感じられる問題だった。

化学の難易度は昨年度並みだった。グラフが5題あり、読み取りや理解、条件を変えたときの変化など今後も多く出題されることが予想される。水銀柱の問題や浸透圧の問題などは苦手な人が多いが、原理の十分な理解が必要である。無機化学・有機化学を中心に基本事項を問う問題も少なくないので、まず基本問題を確実に解く力がのぞまれる。



## 【生物】千葉 禎 教諭

生物基礎の難易度は昨年並みである。ただし、図やグラフなどの読み取りについては訓練が必要。何を問われているのか正しく読み取ることが大切である。教科書の本文ではなく、参考やコラムからも出題されているが、授業で取り扱っている内容である。教科書の内容を隅々までしっかりと理解できていれば、解答は難しくない。

生物では各分野から広く出題されており、それぞれにしっかりとした知識が必要である。全体としての難易度は昨年並みである。選択肢の数は増えているが、図・表の数は昨年度よりは減少している。ただし、高得点を狙う場合は、読み取りの訓練が必要である。リード文が長いので問われている内容をきちんと理解することが大切である。計算を必要とする問題はオーソドックスなものではなかったが、題意を理解すれば解答は難しくない。生物基礎の範囲からの出題もあるので注意が必要である。

## 【地学】千葉 禎 教諭

地学基礎の難易度自体は昨年並みか、やや難化。大問の数が3から4になった。マークの数は例年どおりだが、問題のページ数が増加したので、問題を読み取るスピードも必要であった。平均点は、昨年よりも若干下降する可能性あり。教科書の内容をしっかりと理解できていれば、解答できるようではあるが、図が増加しており、読み取りと解答に時間を要する内容であったかもしれない。

## 数学の分析とアドバイス 保角 剛 教諭

### 【数学ⅠA】

大学入試センターが公表した平均点の中間発表(1月24日時点)においては、数学ⅠAの平均点は51.89点と昨年の59.68点を大きく下回っている。問うている内容自体は平易なものが多いが、分量が多いことと、微妙に目先を変えて出題されていることから受験生にとっては時間内に解ききることはかなり難しい問題だったのではないかとと思われる。

#### 第1問

- [1] 2次不等式の内容だが、一次関数と関連させた出題であった。見たことがない形式であったかもしれないが、丁寧に問題を読み取っていけば難しい内容ではなかった。
- [2] 論理と集合の問題。ベン図を書くなどしてP,Q,Rの包含関係が把握できていれば解答できたと思われるが、苦手な受験生が多い分野なので勘で答えた人も少なからずいたかもしれない。
- [3] 2次関数の出題。線分との共有点の問題は、頂点のy座標が-4で一定であることに気づかなければならず非常に難しい。

#### 第2問

- [1] 三角比の問題。標準的な良問であった。
- [2] データの分析から出題。昨年に引き続き分量が多く、苦戦した受験生が多かったのではないかと。

#### 第3問

確率の問題。大学入学共通テストを見据えてか、[1]で正誤を判断させる問題が出題された。[2]ではコインを投げるゲームの問題が出題された。ルールが正確に把握できれば易しい内容であった。ただ時間に十分気をつけたい。

#### 第4問

整数の問題。(2)で7進法の小数を文字で扱う問題が出題されたが、式変形の意味がわかりづらく戸惑った受験生が多かったかもしれない。その後は問題文に従って式変形していけばよく、易しかった。最後の(ii)はa、bが異なる整数であるという条件を見逃しやすく注意が必要である。

## 第5問

図形の性質から出題。チェバ・メネラウスの定理を用いる単純な問題も出題された。図形が複雑でないため、完答することも難しくなかったのではないかと。図形の性質は、以前は難しい問題が多かったが近年易化傾向である。

大学入学共通テストの試行調査から見える傾向では、教科書の内容をいかに深く理解できているか、事象を数学的に正しく考察できるかといったところに重きが置かれている。正確で早い計算力や、典型問題の解法をマスターすることも重要だが、その奥にある本質的な数学力が問われるものとなると予想される。大学入学共通テストに挑む諸君は、今のうちから腰を据えてじっくりと学習に取り組まなければ歯が立たないような問題になるであろう。頑張りを期待したい。



## 【数学ⅡB】

数学ⅡBの平均点は49.05点と、こちらも昨年の53.21点を下回った。問題の難易度は標準的であったが、第3問の数列はやや複雑であったため2次試験対策を行っていない文系の受験生などは手がつかなかったかもしれない。

### 第1問

[1] 三角関数の問題。(2)では解と係数の関係と絡めて出題されていた。最後の問題では $\sin \theta = 4/5$ ,  $\cos \theta = 3/5$ をみたす角度を有名角( $30^\circ$ ,  $45^\circ$ ,  $60^\circ$ など)の不等式で評価する問題が出題された。大学入学共通テストでもこのような出題が増えると予想される。

[2] 指数、対数の問題。標準的な問題であった。(2)は連立不等式と絡めて出題されていた。

### 第2問

微分・積分の問題。2つの放物線の共通接線から発展していく問題であった。標準的な良問であり、計算量もそれほどではなかった。

### 第3問

複雑な漸化式の問題。置き換えから一般項を求めていくが、その過程で部分分数分解、 $\Sigma$ 計算など多くの計算を要する。また、全体の流れも捉えにくく、一般項を導くまでに至った受験生は少なかったのではないかと。また、(4)はまともに考えるとあまりに時間がかかるため、初項、第1項、第2項で実験できたかどうかポイント。

### 第4問

空間図形のベクトルの問題。(3)で四角形OABCがどのような図形になっているか考察させる問題が出題されていた。大学入学共通テストをにらんでの出題か。標準的な良問。

大学入学共通テストの試行調査からは、数学ⅠAと同様に教科書の内容の深い理解や事象の数学的な考察が求められると予想される。定理や公式が使えるのは当然かつ典型問題がスラスラ解けることは大前提で、そのもとで十分過ぎるほどの問題演習を行い、思考力を鍛えなければならない。また、問題の形式も会話形式になったり、日常の現象から発展させたりしたものなど工夫がなされており、試験本番でもこれまで見たことのない形式の問題に出会う可能性が非常に高い。よってどんな問題が出て動揺することのない確固たる実力をつけていく必要があり、高得点を取るための道のりは非常に険しい。

皆さんに頑張ってもらいたいことは、まず一つ目に授業の内容をとにかく深く理解することである。授業中や授業後にわたしのところへ質問に来る生徒はほとんどいないが、きちんと内容を理解できているのか心配である。もう一つは、今のうちから様々な問題でじっくりと演習を重ねることである。思考力や応用力は問題演習をいかに自力で重ねるかにかかっており、こちらで身に付けさせることは難しい。自分で問題集を解き進めたり、先生に添削指導をお願いしたりするなどして、地道に努力していくしかない。

## 地歴公民の分析とアドバイス

### 【政治経済】桑机 祐之 教諭

政治分野と経済分野が半々に出題されています。そのうち、図表の読み取りが6問、時事問題が3問ありました。今年の時事問題は、SDGs(2015年)、パリ協定(2016年)、刑事訴訟法の改正(2016年)の3問でした。多くの問題は、教科書レベルで解答できる問題です。さらに高得点を目指すのであれば資料集を活用しましょう。時事問題も資料集に載っている事項ばかりです。受験は、教科書と資料集を読み込み、お金に余裕があれば用語集と問題集を1冊、さらに余裕があれば参考書を用意してください。あとは、君たちのやる気次第です。

### 【倫理】樋口 史明 主幹教諭

例年どおり、第1問が現代の倫理、第2問が宗教、第3問が日本の思想、第4問が西洋の思想で問題数も36問でした。難易度は例年並みで思考力を問うような新傾向の問題や悩むような難問はあまり見受けられませんでした。授業と課外をきちんと受けて問題演習を行えば高得点が期待できます。

### 【日本史B】軽部 熊一 教諭

大問数6題、小問数36問の問題数は昨年と同様でした。図版・資料の読み取り問題が3題出題されました。なかでも複数種類の資料を読みとる問題は、共通テストの試行調査と類似した性格をもつと思います。皆さんが今やるべきことは、基礎知識を確実に身に付けることです。授業で使用している問題集などを徹底的にやり込んでください。日本史という教科は分かるようになるまで時間がかかりますが、分かり始めたらこれ程面白い教科はありません。今すぐ取り組んでください。



### 【地理B】瀬野尾 直子 教諭

問題数は昨年と同じで35問でした。6択問題を含む組み合わせ問題が減少してシンプルな選択問題が増加しました。出題はオーソドックスで、傾向の変化も特には見られませんでした。選択肢の絞り込みにやや困る問題もありましたが、全体としては基本的な学習をしていればきちんと得点のできる問題だったと思います。第1、5問は例年どおり確実に押さえておきたい問題でしたが、その他の問題は思考力が必要とされるものもあったと思います。まずは基本的な学習から、頑張ってくださいね。

### 【世界史B】樋口 史明 主幹教諭

難易度は例年並みだと思いますが、解いていて生徒がひっかかりそうだなと思う問題は何かありました。授業をしっかり聞いて、ノートに書かれている文章をきちんと記憶していれば満点取れます。日々の授業を集中して聞くことと小テストや定期考査前に集中して勉強することで高得点が期待できると思います。

### 【現代社会】小林 伸 教諭

昨年並みでした。昨年と同様、基本的な知識が重視されていました。出題分量は、大問数、設問数ともに変化ありませんでした。昨年と同様、制度や政策、現代社会の動向を問う問題を中心として、各分野から偏りなく出題されています。基本的な知識が重視されている点も変わりありませんでした。本校生徒の平均点は66.5点で全国平均57.3点を上まわりました。『現代社会』で受験を考えている生徒は、日頃から新聞やテレビのニュースを視聴すると良いでしょう。さらに、入試対策用の問題集を解くと良いでしょう。